

フォレストピア学習

フォレストピア学習とは、今まで学習した教科の学習を取り入れて、不思議に思ったこと、調べてみ

ずを越え、フォレストピア圏域(五ヶ瀬町・高千穂町・日之影町・椎葉村・諸塚村)の自然や生活・文化を題材に、体験的なことを見つけ、実験やインタビュー、文献調査などを通して、自分で解決し、発表する学習です。



カヌー体験を通して自然の豊かさを感じ取ります。



学校の実習田にて地元の方の協力を得ながら稲刈り脱穀を行いました。



竹細工を通して、竹の性質も学習します。



熊本でアーチ式の石橋を見学し、構造について学びます。



県内の民謡に触れます。



熊本の民謡に触れます。



茶摘みをし、五ヶ瀬の名産である釜炒り茶を作ります。



自分たちが育てた餅米を使って餅つきを行います。



こんにやくづくりを通して先人の知恵に学びます。



野草を観察収集した後、押し花のしおりを作ります。



ヤマメの生態と養殖について学びます。



地元の林業について学習し、木製のいすを作ります。



近くの砥留山で古代の化石、クサリサンゴを探します。



椎葉を訪れ、山村の生活を文化的視点で考えます。



電気製品を分解してみることも！



鶏をつぶす授業を通して、命のつながりを実感します。



神話の里「高千穂」の神社を訪れ、神話について学習します。



山都町に伝わる清和文楽を鑑賞します。



阿蘇の天文台で星の観察を行い、感動を味わいます。



地元の酒造会社を訪問。酵母のパワーにビックリ！



緑川ダムを訪れ、ダムの構造を学びます。



地元の祇園祭にも参加。神輿を担がせてもらいます。



水俣病の歴史を学習した後、水俣のエコタウンを訪問します。



酸とアルカリの関係について実験をしています。



水質調査に関する実験を行っています。



崇城大学の先生と共にペットボトル再生の実験中。



専門的な研究に触れることも刺激になります。



論文のまとめ方について専門的な立場からアドバイスをいただくこともあります。



4・5年生の森林文化コースでは、フィールドワークを通して、山間部の文化を学びます。地元の方とのディスカッションで、考えを深めています。



4・5年生の森林文化コースでは、フィールドワークを通して、山間部の文化を学びます。地元の方とのディスカッションで、考えを深めています。



前期生で学習した竹トンボの原理について学習しました。



4・5年生の数理工学コースでは、ロボットについても学習します。箱を持ち上げるロボットや多足方ロボットの動きを確認中。



宮崎大学の先生からロボット制御について学びました。



宮崎大学の先生からロボット制御について学びました。



本校は、日本で唯一のオーロラプロジェクト参加校です。スウェーデンの高校生と交流します。



毎年、年度の終わりに自分の研究を発表します。プレゼンテーション能力も鍛えられます。

多くの体験をもとに、こんな研究をしています。

1年 平屋 佑理
(日向市立美々津小学校出身)
「もち」
～早くやわらかくなる固いもち～

2年 山下 遥大
(延岡市立緑ヶ丘小学校出身)
「イスの強度」
～トラス構造と柱の形～

3年 中井 健士郎
(延岡市立延岡東小学校出身)
「こんにやくの内側2」

5年 諸岡 若葉
(宮崎市立江南小学校出身)
「もう〈文化〉は残さない!!」
～文化継承の可能性～

5年 長谷場 舞
(都城市立中島小学校出身)
「土の緩衝作用」
～緩衝作用に関する成分～

5年 白石直也
(延岡市立延岡東小学校出身)
杉尾貴志
(宮崎市立緑洲小学校出身)
「お風呂を早く流すには!？」



4年 本田 良道
(門川町立西門川小学校出身)

フォレストピア学習は「問うことを学ぶ」、まさに「学問」です。この学習で大事なことは「アンテナをはる」ことです。私もいつのまにか日常でもアンテナをはり、「なぜ、こうなるのだろう」と考えるようになりました。また研究は結果だけでなく過程も大切であることを実感しました。私は昨年民謡の研究で椎葉村に行き、約60曲もの民謡に出会いました。「なぜ人は歌を歌うのだろうか。」というテーマで研究を進めるうちに、新たな疑問がわき、それを解決する過程でさらに疑問が生まれました。こう考えると大変そうに思えるかもしれませんが、とてもわくわくする研究となりました。知識を得られるだけでなく人や自然にたくさん触れられるこの学校で、みなさんも「なぜ」を追究してみてください。

阿蘇たにびと博物館長 梶原 宏之



私がフォレストピア学習にかかわらせて頂くようになって随分経ちますが、改めてこの学習が生徒さんたちへ与える意義は大変大きいと感じています。私は特に森林文化の担当ですので、その観点から2つ簡単にポイントを述べてみます。まず、問題の所在を自らの目で、ごく身近な地元から発見できることです。よりよき未来とは、より多くの問題の発見と解決です。森林文化研究では特にフィールドワークの手法を重視していますので、実際の生きた人々とのかわりから問題点を見出すことができます。次にフォレストピア学習で学んだことが、五ヶ瀬や宮崎を出ればますます相対化されることに気がつくでしょう。例えば森林を大切にしている五ヶ瀬のすぐ横には森林にならぬよう努力している阿蘇があります。そうした対比からまた我々の「グローバル」な社会のありかたを考えることができます。フォレストピア学習で得た知見はこれからの人生における物差しのゼロとなるでしょう。

京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士課程1回 江頭 幸士郎 (都城市立祝吉小学校出身)



五ヶ瀬中等教育学校では、おそらく他校に通っていても滅多に体験できないであろう多種多様な活動がカリキュラムに組み込まれており、学術的な面のみならず人との関わり、さらにはひとりの人間として生きていくうえでの基本的な能力や徳といった、さまざまな面で自己の成長に役立つ経験を積むことができます。私も在学中は各種の体験活動を楽しみつつ、またそれらを通じて多くのことを学ばせていただきました。むしろ、貴重な体験をする機会があまりにも当初のように次々と与えられるため、当時の私にはその全てを活かすことができず、いまだにそれが心残りになっています。もし、もう一度この学校で学ぶことができるならと考えることもしばしばで、これら多くの経験を積むことができる在学学生、あるいは新たにこの学校の生徒になるチャンスを持つみなさんのことを、大変うらやましく思います。

